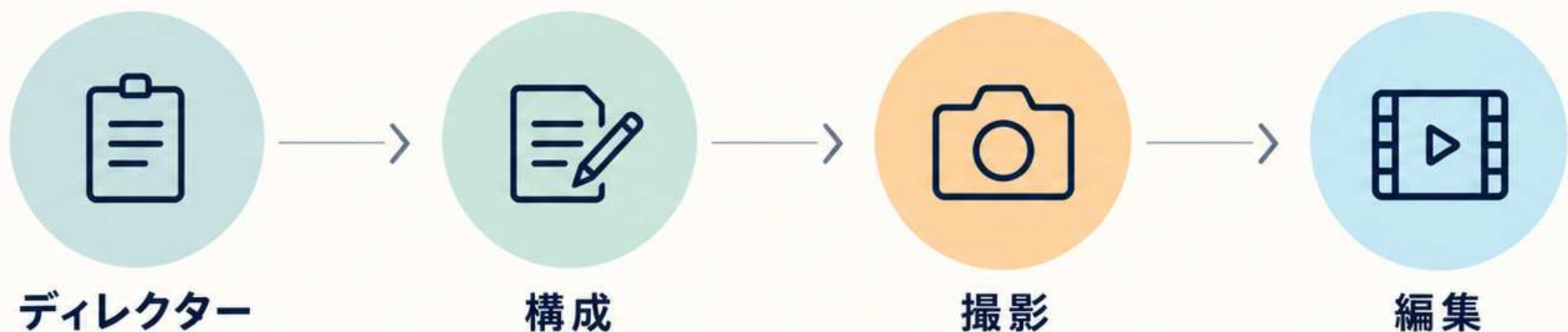


ディレクター・構成・撮影・編集の 分業から学ぶ、社内チームの作り方

制作会社のノウハウを、社員が再現できる運営の仕組みへ。



それぞれの得意をつなぎ、**無理なく続くチーム**を一緒に作っていきましょう。

作り方ではなく、続け方まで決める。



判断と学習が社内に残る

誰が・何を・いつまでに進めるかを決め、**チームの一步**を始めましょう。

動画が作れないのではなく、 運営が設計されていない。

運営のボトルネック



担当者だけが
正解を知る



修正理由が
好みになる



次の変更が
決まらない



繁忙期に
制作が止まる

止まりやすい場所を見つけ、
役割と流れをチームで整えていきましょう。

内製化の目的を一文にする。

制作・育成・運用の知見を、社員が再現できる**運営標準**へ。

Before : 担当者依存



After : チームで判断・制作・改善



完成本数だけでなく、**次の企画を社内で判断できる状態**を目指しましょう。

全部を社内で抱えない。



自社に残す判断を大切にしながら、必要な専門性を上手に取り入れていきましょう。

制作実務と育成実務を、同じ流れで教えられる。



目的の異なる動画を、複数人で速く品質を揃える。

実務の流れを自社に合わせ、チームで再現できる型へ育てていきましょう。

全員を万能にせず、責任の空白をなくす。



兼務しても、責任者名は**一人**にする。

それぞれの役割を明確にし、互いに支え合えるチームを作しましょう。

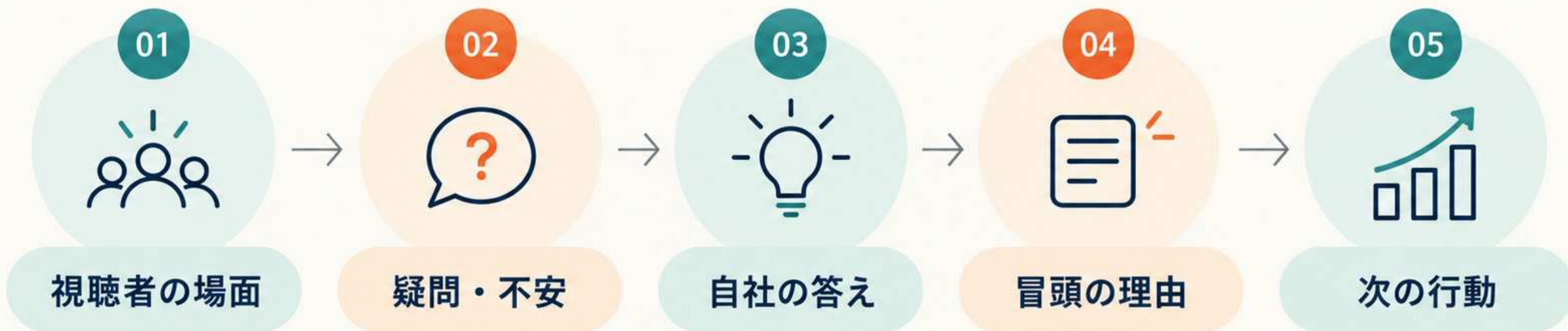
制作開始前の合意が、修正と停滞を減らす。



企画書に、対象・伝えること・行動・確認者・公開日・見る数字を残す。

最初の合意を丁寧に揃え、みんなが**迷わず動ける**準備を整えましょう。

伝えたいことより、相手の判断を先に置く。



一つの疑問に、一つの答え

相手の場面から考え、チームで伝わる企画を一緒に磨いていきましょう。

センスを、再現できるチェック項目へ変える。



必要カットを先に一覧化する。

プロの感覚を言葉に変え、誰でも品質を揃えられるチームにしていきましょう。

高機能より、チームで繰り返せること。

機材 | 最小構成



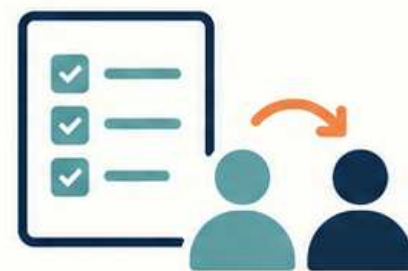
編集 | 基本操作



保管 | 最新版



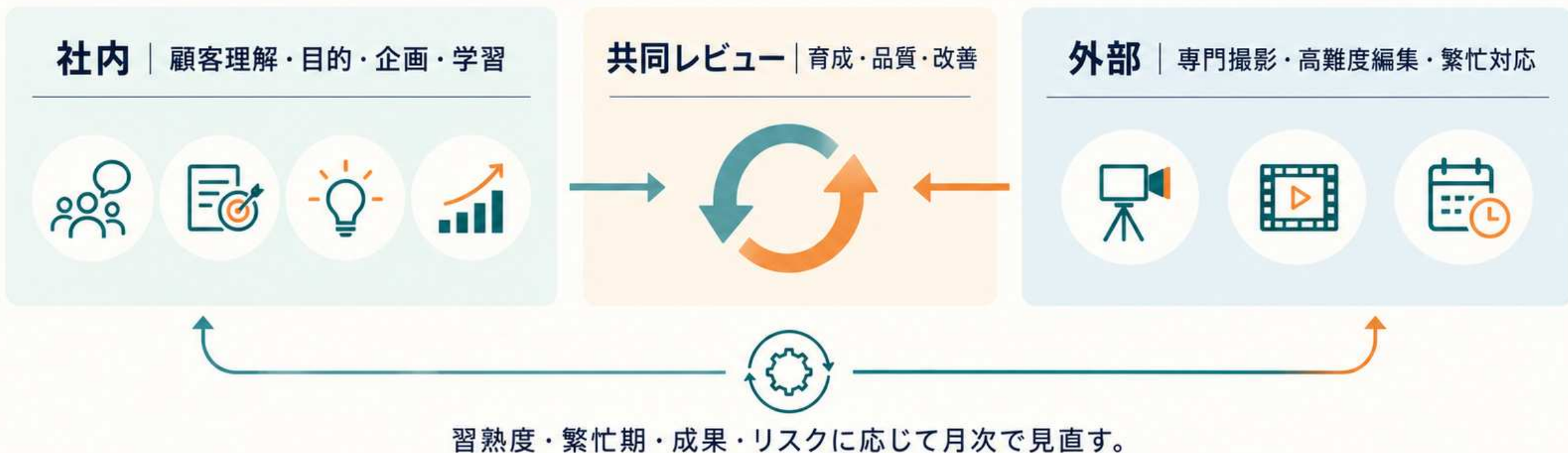
管理 | 引き継ぎ



- ✓ 1週間で覚えられる
- ✓ 共有できる
- ✓ 場所が分かる
- ✓ 他の担当者へ渡せる

みんなが使い続けられる道具を選び、日々の流れに馴染ませていきましょう。

判断は社内、変動と専門性は外部で補う。



社内の判断と外部の力を組み合わせ、学びが残る分担を育てていきましょう。

再生数ではなく、目的までの流れを見る。



次に変えることは一つに絞る。

数字と現場の声を持ち寄り、次の一本をチームで良くしていきましょう。

小さく試し、作る範囲を広げる。



i | 成果保証ではなく、検証の進め方を示すモデルです。

小さな実践から確かめ、自社に合う範囲を少しずつ広げていきましょう。

最初から完成形を目指さない。

- 1 0～30日
| 目的・役割・企画
- 2 31～60日
| 撮影・編集・レビュー
- 3 61～90日
| 数値・負荷・分担更新



続ける

役割を変える

外注を増やす

テーマを変える

一度止める

90日の学びを持ち寄り、今のチームに合う運営へ更新していきましょう。

明日から作るのは、 動画ではなく**運営の土台**。



変えたい経営課題



最初の視聴者とテーマ



社内責任者と確保時間



外部へ相談する工程



最初の4本を振り返る日

自社の内製範囲を相談する >

それぞれの得意を活かし、自社らしいチームと一緒に育てていきましょう。